

#3初めの愛をもって主を愛し、命の木としての主を享受し、イエスの証しとしての金の燭台となって、神の永遠のエコミーの目標としての新エルサレムを建造する **Bird's eye view** 8/15-21

I 啓示録2:7で命の木は、十字架につけられ(一片の木材としての木において暗示される)、復活した(神の命において暗示される)キリストを表徴します。彼は今日、召会の中におり、この召会の究極的完成は新エルサレムとなり、その中でこの十字架につけられ復活したキリストは命の木となり、神のすべての贖われた民の養いと享受となり、永遠に至ります。啓2:7 勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう。

II アジアの諸召会は、エペソに在る召会を含めて、使徒パウロの婚約させる務めから離れ去っていました。こういうわけで、私たちが見るのは、およそ二十六年後、使徒ヨハネがエペソに在る召会に書簡を書いたとき、彼らはすでに初めの愛を離れていて、命の木としてのキリストの真の享受を失っていたということです。2コリント11:2 私は神のねたみをもって、あなたがたをねたんでいます。なぜなら、あなたがたを清純な処女としてキリストにささげるために、一人の夫に婚約させたからです。3 ところが、私が恐れるのは、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが腐敗させられて、キリストに対する単純さと純潔を失いはしないかということです。A新約の真の務めは常に私たちを奮い立たせて、初めの愛をもって主イエスを愛させ、私たちを強めて、単純に命の木としてのキリストを食べさせ享受させ、私たちの命の供給とならせます。B初めの愛をもって主を愛することは、すべての事において彼に首位、第一位を与えて、彼の愛によって押し迫られ、私たちの生活の中で彼をすべてとして尊び、受け入れることです。

靈感:

C エペソ人に対する書簡におけるパウロの結びの言葉は、「不朽不滅の中で、私たちの主イエス・キリストを愛するすべての人」に対する恵みの祝福です。エペソ人への手紙において、「愛の中で」という感情豊かな句が、繰り返し用いられています。エペソ5:25 夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛しなさい。6:24 不朽不滅の中で、私たちの主イエス・キリストを愛するすべての人に、恵みがありますように。D エペソ人への手紙の目標は、私たちが神の内なる実質である愛の中へともたらすことです。それは私たちが、愛としての神を享受し、

神聖な愛の甘さの中で神の臨在を享受して、それによってキリストと同じように他の人たちを愛するためです。E エペソに在る召会は、主を愛するという事において失敗しました。そのような失敗は、各時代における召会の失敗のおもな原因となりました。マルコ12:30 心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、主であるあなたの神を愛しなさい。

靈感:

F 啓示録2:1~7のエペソに在る召会への主の手紙には、四つの主要な点があります。これらの四つの主要な点は、英語の「L」の文字で始まる四つの言葉であり、それは「愛(love)」、「命(life)」、「光(light)」、「燭台(Lampstand)」です。G 命の木を食べること、すなわち、キリストを私たちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです。命の木としてのキリストは、「食べるのに良い」ものであり、それによって私たちは、彼を食べて私たちの享受とすることができ、また彼で構成されて神の表現となることができます。1 召会生活の内容は、キリストの享受にかかっています。すなわち、私たちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊かになります。しかし、キリストを享受することは、私たちが初めの愛をもって彼を愛することを必要とします。2 もし私たちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台は私たちから除き去られます。3 この三つの事柄(主を愛すること、主を享受すること、主の証しとなること)は並行します。

靈感:

III 主の回復は、初めの愛、すなわち最上の愛をもって主イエスを愛することの回復であり、また主イエスを命の木として食べることの回復であり、キリストの有機的なからだを建造するためです。それは、神の永遠のエコミーの目標としての新エルサレムを建造することです。A 私たちは、命の木としてのキリストを享受するために、絶えず彼に、「主イエスよ、私はあなたを愛します」と告げなければなりません。私たちが主イエスに対する燃える愛を持ち、すべての事で彼に第一位を与えるなら、彼であるすべてを享受します。啓2:4 しかし、私には、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった。5 そこで、あなたはどこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めのわざを行ないなさい。しかし、そうしないなら、私はあなたの所へ行く。そして、もしあなたが悔い改めないなら、

あなたの燭台をその所から除き去る。B主を信じることは、主を命として受け入れることです。主を愛することは、主を命として享受し、私たちが受け入れたこのパーソンを享受することです。信仰が神によって私たちに与えられているのは、私たちが信仰によってキリストを私たちの命として受け入れるためです。愛は、そのようなすばらしい信仰から出て来るものであって、私たちが、私たちの命としてのキリストの中で、三一の神の豊富すべてを生かし出すことができますようにします。C私たちが主イエスを信じたときに受け入れた命は、パーソンです。そして、このパーソンを適用し享受する唯一の道は、初めの愛をもって彼を愛することによってです。私たちの命としての主イエスはパーソンであるので、私たちは彼との新しい接触を持って、この瞬間、日ごとに、彼の現在の臨在を享受する必要があります。2コリント5:14 なぜなら、キリストの愛が私たちに押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。D「あなた自身をささげて主を愛しなさい。このように有効な道は他にありません。このように安全で、このように豊かで、このように享受に満ちた道は他にありません。ただ彼を愛しなさい。他の事を気にしてはいけません」。

靈感:

E私たちが彼を愛するとき、彼はご自身を私たちに現します。そして、彼と御父は私たちの所にやって来て、私たちと共に住まいを造ります。こういうわけで、私たちは次のような祈りをする必要があります、「主よ、あなたの愛を私に示してください。そして、あなたの愛で私に押し迫り、私があなたを愛し、あなたに生きるようにしてください。主よ、私がいつもあなたを愛するようにしてください」。私たちは絶えず主に告げなければなりません、「主イエスよ、私はあなたを愛します。主よ、私をあなたの愛の中に保ってください! あなたご自身をもって私を魅了してください! 私をいつも、あなたの愛すべき現在の臨在の中に保ってください」。F私たちは彼を愛すれば愛するほど、ますます彼との交わりの中で彼の臨在を持つようになります。私たちが内在的な方法で主の回復の中にいることは、私たちが主イエスを愛することです。もし私たちが彼を愛さないなら、私たちは主の回復については終わりです。雅1:2 彼の口の口づけをもって、私に口づけしてください! あなたの愛はぶどう酒にまさるのです。3 あなたの塗り油はかぐわしい香りを放ち、あなたの名は注がれた香油のようです。それゆえ、おとめ

たちはあなたを愛するのです。4 私を引き寄せてください。私たちはあなたの後を走ります...。Gこの事に基づいて、私たちは次のように歌い、祈るべきです、「私は私の主を愛します。しかし、私の愛をもってではありません。なぜなら、私にはささげるものがないからです。主よ、私はあなたを愛します。しかし、すべての愛はあなたのもので。なぜなら、あなたの愛によって私は生きるからです」。

靈感:

神戸に在る召会 交わりと報告事項

1. YouTube福音主日集会:

今日の14:00-14:50の福音主日集会は、召会全体です。現場は本山1F、2Fで行います。

2. リジョイスガーデン掃除ブレンディング:

15(月)各集会所8:30出発。9:10にリジョイスガーデンに到着するようにしてください。着いてからリー全集追求後、掃除を行います。各自昼食持参。15:00下山です。

3. ベンソン兄弟のために:

ベンソン兄弟が一週間前に病気の治療のためにテキサス州フォートワースの病院に入院したということ、彼の家族は、あなたがたに知っていただきたいと願っています。その時点から、彼の状況は非常に深刻で、危機的で、緊急なものとなっています。彼には肺と心臓に問題があり、集中治療が必要なほど悪化しています。

私たちの親愛なる主が、ご自身の大いなる喜びにしたがって、私たちのベンソン兄弟の状況のあらゆる詳細を顧みてくださるよう祈ってください。

4. 関西責任者・奉仕者ブレンディング集会:

20(土)10:00-11:00@本山1F

Zoom ID:374 864 5537 PW:3131

5. 召会生活のために次世代を育てる特別集会:

※参加費2000円が必要です。

26(金)19:30-21:00 M1

27(土)8:30-10:00 M2

10:30-12:00 M3

14:00-15:30 M4

28(主)14:00-15:30 M5

【Zoom ID】:844 4034 0864 PW:144

6. 聖書通読: 今週は通読表の34週目です。

CP1 主を愛すること、主を享受すること、
主の証しとなることは並行する

IA 新約の真の務めは常に私たちを奮い立たせて、初めの愛をもって主イエスを愛させ、私たちを強めて、単純に命の木としてのキリストを食べさせ享受させ、私たちの命の供給とならせます。2コリント11:2 私は神のねたみをもって、あなたがたをねたんでいます。なぜなら、あなたがたを清純な処女としてキリストにささげるために、一人の夫に婚約させたからです。3ところが、私が恐れるのは、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが腐敗させられて、キリストに対する単純さと純潔を失いはしないかということです。**F** 啓示録2:1~7のエペソに在る召会への主の手紙には、四つの主要な点があります。これらの四つの主要な点は、英語の「L」の文字で始まる四つの言葉であり、それは「愛(love)」、「命(life)」、「光(light)」、「燭台(lampstand)」です。**1** 私たちはあらゆる面において、またあらゆる事において、主イエスを首位とし、初めの愛を回復しなければなりません。そうすれば、私たちは彼を命の木として享受します。そして、この命は命の光となります。**2** その後、私たちは、金の燭台として、イエスの証しとして輝いているでしょう。そうでないなら、燭台は私たちから除き去られるでしょう。**a** 金の燭台は、三一の神を象徴します。すなわち、父は実質であり、子において具体化されています。子は具体化であり、霊を通して表現されます。霊は諸召会として完全に実際化され、表現されます。そして諸召会は、イエスの証しです。**b** 神聖な思想において、金の燭台は実は、生きており成長している木であり、萼(がく)とアーモンドの花を持っています。このゆえに、燭台は、キリストにおいて具体化されている三一の神が、生きた、復活の金の木であることを描写しています。それは、私たちの中で、私たちをもって、私たちによって、私たちの中から成長し、枝を出し、つぼみを出し、開花し、光の実(その霊の実)を生み出します。この実は、性質において善であり、手続きにおいて義であり、表現において真実です。それによって神は、私たちの日常の歩みの中の実際として表現されます。**G1** 召会生活の内容は、キリストの享受にかかっています。すなわち、私たちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊かになります。しかし、キリストを享受することは、私たちが初めの愛をもって彼を愛することを必要とします。**2** もし私たちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台は私たちから除き去られます。**3** この三つの事柄(主を愛すること、主を享受すること、主の証しとなること)は並行します。

適用:青少年、大学生、新人編

証1 在職青年として働いていた頃、集会の中では、主を食べ飲み享受していましたが、集会が終わると主の臨在が消え去り、映画、絵画鑑賞、買い物に行くなどして、この世の享受に戻る生活を繰り返していました。「このままではいけない」と内なる命の感覚があるのに、その感覚を無視していました。しかしある日、主に対する愛が欠けており、主イエスを第一位として自分を主に明け渡していないことが照らされました。もっと、主と召会生活のために時間を使う必要があると思い、仕事の後や週末に兄弟姉妹と共に福音に出て行くようになりました。私は初めの愛を持って主イエスを愛し、命としてのキリストを食べ飲み享受して、イエスの証を担う者になりたいです。

証2 私は召会生活の初めから、兄弟姉妹と共に主を愛し、主を享受しています。これは私にとってとても良い生活の基礎となりました。結婚して、子供が生まれてから、集会に行くために家を出ないといけない時、また福音開展の時、新人を訪問する時、子供の様子を見て出ていくことを躊躇したことがよくありました。今、子供を起こして行ったら、寝不足で、集会中に泣いたらどうしよう、長い時間外にいると大丈夫かなと思ったことがありました。このような時、いつもありのまま主に祈りました。主に祈ると、余力兄弟の証しを思い出しました。余力兄弟は本山集会所を建てる時、平日の集会のない日には監督のため、仕事が終わってから建設現場を見に行く必要があり、そのため、残業することができませんでした。残業の文化の日本の会社で、余力兄弟は仕事の時間中は集中して一生懸命仕事をやり、仕事の終わりの時間になったら、主に「主よ、今、本山集会所を見に行きます。私の代わりに残業してください」と祈って帰ったそうです。私も励まされて、主に祈りました「主よ、まずあなたを享受し、あなたの必要を顧みます。私の子供を顧みてください」。内側に主を第一位にする感覚と力が与えられました。このように主を第一位として祈り、実行した結果、不思議と私の子供はいつも私が思った以上に顧みられました。主に感謝します。

祈り おお主イエスよ、あらゆる面において、またあらゆる事において、主イエスを首位とし、初めの愛を回復する必要があります。主を享受すればするほど、召会生活の内容はますます豊かになります。もし主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失ってしまいます。主を愛し、主を享受し、主の証しとなることは並行するからです。

CP2 主イエスに対する燃える愛を持ち、すべての事で彼に第一位を与え、彼であるすべてを享受する

III A 私たちは、命の木としてのキリストを享受するために、絶えず彼に、「主イエスよ、私はあなたを愛します」と告げなければなりません。私たちが主イエスに対する燃える愛を持ち、すべての事で彼に第一位を与えるなら、彼であるすべてを享受します。啓2:4 しかし、私には、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった。雅1:2 彼の口の口づけをもって、私に口づけしてください! あなたの愛はぶどう酒にまさるのです。3 あなたの塗り油はかぐわしい香りを放ち、あなたの名は注がれた香油のようです。それゆえ、おとめたちはあなたを愛するのです。4 私を引き寄せてください。私たちはあなたの後を走ります…。

あなた自身をささげて主を愛しなさい。このように有効な道は他にありません。このように安全で、このように豊かで、このように享受に満ちた道は他にありません。ただ彼を愛しなさい。他の事を気にしてはいけません。教え、教理、賜物、力はあまり意味がありません。私たちが、絶えず主に告げなければなりません、「主よ、私をあなたの愛の中に保ってください! あなたご自身をもって私を魅了してください! 私をいつもあなたの愛すべき臨在の中に保ってください!」。もし私たちがこのように祈るなら、私たちは主に対してどのような愛を持っているのか、また私たちがどのような生活をしているのかを見るでしょう。私たちは、ただ主ご自身によって生きるでしょう。私たちが自分の存在の最も深い部分から彼を愛する限り、すべての事が良くなるでしょう。もし私たちに知恵が必要であるなら、彼は私たちの知恵となるでしょう。もし私たちに力が必要であるなら、彼が力となるでしょう。もし私たちに正確で十分な知識が必要であるなら、彼は私たちにとって正確で十分な知識とさえなるでしょう。私たちが必要とするものは何であれ、彼がそれです。何か他のものを得ようとししないでください。彼が彼の愛をあなたに啓示してくださるよう、ただ彼を仰ぎ望んでください。雅歌1:4は言います、「私を引き寄せてください。私たちはあなたの後を走ります」。私たちが、引き寄せてくださるよう主に求めなければなりません。そうすれば他の人たちも、私たちと共に彼の後を走るでしょう。

適用: ビジネスパーソン、大学院生編

証 アンドリュー・ユー兄弟はがんの治療から復帰したばかりの台湾の特別集会の時、主の愛に押し迫られて泣き崩れ、メッセージすることができ

ませんでした。その集会は、主の愛が押し迫り、献身する雰囲気になった素晴らしい集会でした。彼は、「最近、主の御前で涙を流したのはいつですか?」という質問を問いかけました。2コリント5:14 なぜなら、キリストの愛が私たち押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。15 そして、彼がすべてのために死なれたのは、生きている者が、もはや自分自身ではなく、彼らのために死んで復活させられた方に生きるためです。私は彼の涙を見て感動し、その霊によって内側で深く探られました。そして私はビジネス・ライフにおいて自分自身に尋ねて言いました、「私は主御自身を愛しているだろうか?」。

私はビジネス・ライフで、特に主にビジネスが祝福されていた時に、「私は主のビジネスに関する祝福を愛しているのか、それとも主御自身を愛しているのか」と自分に問いました。そして、「あなたは私を愛し、私のために死んでくださいました。主イエスよ、あなたの愛に触れ、あなたの愛の中であなたを愛します。あなたの内住の臨在が私の祝福、保護、導きです。あなたを失えば、私はすべてを失います。あなたが私を憐れみ、全生涯、あなたご自身を愛し続けることができますように」と祈りました。ガラテヤ2:20 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

特にこの経験の後、主との個人的な交わりの中で、主の愛に押し迫られて、涙が出てくることを何回も経験しました。それは、何か特別な環境があるわけではないのですが、主の臨在の中で主と親しく交わりの中で、主の愛に触れて感動し、献身を更新する経験です。「主イエスよ、私を引き寄せてください。私は兄弟姉妹と共にあなたの後を走ります」。

祈り おお主イエスよ、主の回復は、初めの愛、最上の愛をもって主イエスを愛することの回復であり、また主イエスを命の木として食べることの回復です。ほかの事柄を脇に置き、ただ専一に主を見つめ、私の存在の最も深い部分から主を愛することができるように、主よ、あなたの愛で私を引き寄せてください。「主イエスよ、私はあなたを愛します」と絶えず主に告げ、命の木としてのキリストを毎日毎時享受します。